



橋爪ホーム 起工式 10月1日

知的障害者のグループホーム

一九七一年四月に、あゆみの家は、無認可の通所施設として始まりました。その翌年「ルターホーム」が建ちました。通所のあゆみの家を利用したいが、遠方で通うことができない方のため、生活ができる施設という目的で建てられました。無認可のグループホームといえます。

その後、一九八五年に五〇名定員の入所施設「第二あゆみの家」が建設され、生活の場の整備が進みました。しかしながら、五〇人の集団生活、四人部屋、重度で行動障がいのある方もおられ、いつもにぎやかな状況で、決して落ち着いていた生活ができる住みやすい所とはいえませんでした。一九八九年、知的障害者のグループホーム制度が国の事業として始まりました。この制度では、四、五人程度の利用者が、地域の住宅で共同生活をし、世話人という職員が、その生活を支えるというものでした。入所施設での生活に比べ、グループホームでの生活は少人数で、落ち着いた生活ができるということで、グループホームの整備にむけての取組がはじまりました。そして、この制度による最初のグループホーム「あゆみホーム」は一九九三年九月に始まりました。その後、無認可で始まったルターホームも国の制度によるグループホームに切り替わりました。そして四十年あまりの年月が経過し、現在、当法人には、七カ所のグループホームがあり、利用者は三五名になりました。この間利用者の皆さんは、高齢化し、利用者の約六割が六十代以上になられています。高齢化で身体的にも重度の方が増え介護が必要な方も増えています。現状のグループホームでは、このような重度の利用者への対応が困難になってきました。

そこで、重度高齢の利用者に対応できるグループホームの建設に向けての準備がはじまり、昨年度その計画案がまとまりました。そして、今年六月に、国の補助金の内示を受け、本格的に建設に向けての準備作業が始まりました。十月初めには着工、来年三月には完成の予定です。新しいグループホームは、六人生活できるユニットが二つある十二名定員のホームです。

あゆみの家では、障がいのある方の地域での豊かな暮らしを目指して、グループホームの事業をすすめてきました。今年度の報酬改定の厚労省の文書の最初に「障がい者の希望する地域生活を実現・継続するための支援の充実」ということが掲げられています。一人暮らしへの支援についても報酬に評価されるようになりました。

新しいホームができることは、とてもうれしいことです。が、まだまだ、利用者さんたちの希望に十分にこたえることができていません。グループホームでの支援を通じて、生活される利用者ひとりひとりの、真のゆたかな生活が実現するよう、さらに支援の充実を努めなければなりません。と思っています。



新グループホームの完成予想図

“みんなに支えられて”

理事 名和 桂子



十月十四日大垣ルーテル教会で東海教区の女性の集いがありました。日本福音ルーテル教会は全国四つの教区に分かれており、私たちは東海教区に属しております。東は沼津から西は大垣まで二十一の教会があり、それぞれの場所で宣教の業に励んでおります。それぞれの教会に女性会があり年に一度、場所は変わりますがテーマを決めて全体集会を開きますがテーマを決めて全体集会を開き互いの信仰を励まし合ったり、情報交換などしてまいりました。今回は「あゆみの家をもっと知ろう」「もっと応援しよう」という主旨で「あゆみの家講演会」と題して大垣教会が会場となり朝十時三十分から午後三時三十分まで中味の充実した集いを行いました。五十名の参加者があり、大変恵まれた一日を過ごすことが出来ました。

午前中は小林事務局長が丁寧に準備された資料を皆さんにお配りして、あゆみの家の創始者のポーマン先生が何故日本に來られるようになったのか、どのようにしてあゆみの家が始まっていったのかなど懐かしい写真を映しながら説明してくださいました。

又、現在八事業所と成長したあゆみの家の働き、将来の展望に加えていろいろな課題もある事など話されました。初めに関わった者の一人として私にもお話しする時間が与えられ、三人からスタートした時の事を思い出しながらお話をさせていただきました。特に福祉をとりまく環境は五十年前とは大変大きく変化し、地元の方々をはじめ、多くの方々の御理解や御支援をいただけるようになった事を感謝の思いをこめてお話させていただきました。

参加者の中には前からあゆみの家のことをよく御存知の方もおられました。はじめての方々もこの集いを通してあゆみの家を知っていただき、心に覚えていただけた事と思います。ここまでこれたのは神様の祝福はもとより職員の方々、利用者の皆さん、父兄の方々に加えて本当に多くの方々のお支えがあったからこそと思っています。今回更に新しい応援が加わって力強い思いです。これからも聖書にもとづく愛の業が続けられていく事を願って祈り続けていきたいと思っております。



笑顔溢れる楽しい生活

第二あゆみの家 生活支援員 福澤真央

第二あゆみの家は、二四時間三六五日利用者の方が安心して過ごして頂けるよう切れ間の無い支援をしています。第二あゆみの家の利用者は、通所施設とは異なり生活を施設で送られているため、好きな時に外出できないことが現状としてあります。そんな中でも利用される方が楽しく生き生きと生活、活動できるように心がけています。

昼間の活動では一か月に一回おやつ作りがあります。材料を包丁で切ったり、混ぜて焼いたり利用者それぞれの得意なことを活かしながら協力しておやつを作ります。一つの物を皆で作って、形になっていく楽しさ、おいしいを共有する楽しさがあります。定期的に行われる活動としてケーキや、ドーナツ、パフェなど利用者の好きなものを食べに行く喫茶外出や、電車に乗って遊園地に行ったり、大型ショッピングモールを満喫したりと一日楽しむ活動も行っています。

またお楽しみ会も不定期ではありますが行っています。今年六月八日（土）にマグロの解体ショーが開催されました。少し冷えた部屋に回転寿司でおなじみのレーンが用意され、さらに大きなマグロ。部屋に入った利用者は普段見る事のない光景に目を輝かせていました。大きなマグロの尾びれをのこぎりで切り、貴重な中落ちをかけ、じゃんけん大会はとても盛り上がり



のこぎりで尾びれを切っています

ました。解体する様子を前のめりで見る利用者の姿は印象的でした。回転するレーンの上を食べきれないほどのマグロが流れており、回転寿司の雰囲気を楽しみながらマグロでお腹がいっぱいになりました。利用者の幸せそうな笑顔をたくさん見ることができました。

外出するのも楽しいですが、施設の中で一緒に過ごすみんなと普段できないことや、楽しい思い出ができるようにこれからも活動を考えていきたいです。



長いレーンを皆で囲みました



中落ちをスプーンで取ります

繋がるく西濃圏域のチームく

西濃障がい者就業・生活支援センター

生活支援ワーカー 柳 葉子

障がい者就業・生活支援センターは、「一般の会社で働きたい・活躍したい」「仕事も生活も充実させたい」等の思いを実現するために、就労と生活を一体的において支援する機関の一つです。全国には337か所、岐阜県には六か所設置されており、西濃エリアを担当しているのが、私たち「西濃障がい者就業・生活支援センター」です。「・」があることから、通称「なかぼつ」とも言われています。(以下、なかぼつ)

その人がその人らしい人生を送るために、ライフステージごとに支援機関が関わりバトンを繋げていきます。「西濃なかぼつ」もバトンを受け取り、また次に繋げていきます。そうした方達とともにチームで支援をしていくことが、なかぼつには求められています。

なかぼつの業務のひとつに「圏域ネットワーク事業」があります。企業やハローワーク、就労系の障害福祉サービス事業所や学校等と連携を強化しながら、必要な協議等を行う事業です。「西濃なかぼつ」では、この事業の一つとして企業ネットワーク会議と福祉ネットワーク会議を開催しています。今回は、西濃圏域障がい者生活支援推進会議「就労・雇用支援部会」とタイアップして開催している福祉ネットワーク会議についてご紹介させていただきたいと思えます。

福祉ネットワーク会議は、障害者職業センターやハロー

ワーク、就労系のサービス事業所や相談支援事業所、行政等がメンバーになります。昨年度の参加者アンケートで、「親亡き後」「連携」をとりあげてほしいという声が多くありました。そのため、「親亡き後」をテーマに、第一回として権利擁護について学び、第二回として「親亡き後」に係る課題の可視化を行いました。

第二回はグループワークのみで構成したので意見がでるか心配でしたが、みるみるうちに漠然としていた親亡き後の地域課題が分類され、全体で共有できる形ができました。これで、協議するテーブルに乗せることができます。まさにポトムアップ型の会議となりました。一人ひとりが積極的に発言され、協力しながら作業を進められて、そして、何よりも終始笑顔。「笑顔を大切に」というグラウンドルを設けましたが、不要でした。時間が足りないほど、活発なグループワークとなりました。

会議を重ねるたびに一人ひとりが会議に参画される姿があり、顔の見える関係性が出来てきているように感じます。そして、西濃圏域の支援機関の新たな強みを知る機会にもなります。

多忙な中でも参加してくださる方々には感謝するとともに、私たち西濃なかぼつも地域の支援機関のひとつとして、障がいのある方を支援する機関の一つとして、繋がりを大切にしながら、障がいのある方達の夢や希望を実現できるように支援をしていきたいと思えます。





感染症対策についての学び

現在では緊急時においても自然に感染予防ができるようスタンダードプロシジョン（標準予防対策）を意識して取り組んでいます。

日々の生活支援においては体調不安や症状がある場合は無理をせず静養あるいは受診をおこない、

注意が集団を守る事を学びました。

令和五年五月八日から新型コロナウイルス感染症の位置づけが第五類感染症扱いになり一年半が経過するなか、施設では三件のコロナウイルス感染症が発生しました。

みなさんの生活の場である第二あゆみの家・グループホームは一度感染症が発生すると流行し広がりやすく、クラスターが発生しやすい場です。感染源はいつでもどこから発生するかわかりません。そのため、日頃から地域での感染症の流行状況に関心を持ち、感染症発生時の対策を職員間で共有し個人個人の注意あるいは個人個人への

施設現場における感染症対策の取り組み

きずな2006・第二あゆみの家

看護師 北村 万貴子



感染対策実地研修(ガウンの着脱)
菌で汚染された箇所に気を付けて脱ぐ練習

その場に應じたマスクの着用や定期的な換気や消毒の実施、手洗い・手指消毒の習慣化、口腔ケアの充実など感染のリスクをできるだけ回避できるように日々取り組み実施しています。

看護師として利用者様の健康管理と体調の変化を見極められるように支援員との情報共有を心がけ、いつ発生するかわからない感染症の予防に日々努めていきます。

一步踏み出したあゆみの家祭

あゆみの家祭実行委員長 古川 里奈

昨年度のあゆみの家祭では、参加者を限定しての実施でしたが、今年度はご家族の方にも参加して頂き、より華やかなあゆみの家祭を行う事ができました。準備期間が限られた中でしたが、利用者実行委員を中心とし、どうしてもあゆみの家祭を盛り上げる事ができるかを考えました。まずはじめにテーマを決めました。利用者の方から様々な素敵な言葉が挙がり、「みんなとわくわく、楽しいあゆみの家祭にしよう」というテーマで行う事にしました。話し合いを重ねる中で、「ステージ発表がしたい」「おいしいものが食べたい」等と多くの要望が挙がり、それを実現するために私たち職員も話し合いを重ねました。利用者実行委員の方には、当日の司会や役割等を自身で選んで頂き、台本を片手に練習を重ね、いよいよあゆみの家祭の本番を迎える事ができました。

前日まで雨模様で心配しましたが、当日は天候に恵まれ、晴れの日程で行うことができ、利用者の方とても喜ばれていました。各事業所の作成したバックの絵を取り付けると、全事業所の利用者の方が関わり作りあげた事にとっても感動をし、歓喜の声が上がっていました。オープニングが始まると、利用者実行委員の方が中心となり、あゆみの家祭を進めていきました。今年のゲストは「岐阜金華篠笛の会」の方にお越しいただき、演奏してくださいました。様々な楽曲と篠笛がうまく融合した素敵な演奏に、会場はとも盛り上がりました。次のステージ発表では、どの事業所も今まで練習してきた成果を発揮しようと、活気あふれるステージとなりました。衣装や飾りをつけ、みなさんと



デイベンターあゆみの家発表



ゲスト:岐阜金華篠笛の会

も良い笑顔で発表され、終わった時には達成感にみちた顔をされていた。「発表の場」というのは、今までコロナ禍で少なくなっていました。そして、待ちに待った機会は改めて良いものだと感じました。そして、待ちに待った模擬店やゲームコーナーも楽しみました。仲間と一緒に外で食べる方、ご家族の方同士お話しをしながら楽しまれていた姿がみられ、とてもあたたかい雰囲気となりました。午後からは三十年來のお付き合いである「伊舞木座」の方にお越しいただき、癒される時間を過ごす事ができました。

ボランティアの方、ご家族の方が、「すごく楽しかったです。とても感動しました。来年もまた来たいです。」と言われていた言葉が私はとても嬉しく感じました。これもひとえに利用者の方の持っている、人を引きつける力だと感じています。このような利用者の方のすばらしさをもっともっと外部の人に伝えられる場を計画し、今後も活気あるあゆみの家をみんなで作ってつくりあげていきたいと思えます。

出来事ピックアップ



8/3(土) 夏祭り
(デイセンターあゆみの家)



8/9(金) 夏祭り
(ぐっどらんど)



9/18(水) やなぎG一日外出
(第二あゆみの家)



9/19・20(木・金) 一泊旅行
(きずな2006)



9/28(土) お月見レク
(林町デイセンター)



10/6(日) 栗原地区運動会
(第二あゆみの家)

最近のできごと (8/1~10/31)

デイセンターあゆみの家

- 8/ 3(土) 夏祭り
- 8/13(火) 水遊び
- 8/17(土) クッキング
- 9/6(金)、9/20(金) たけのこG 外食
- 10/11(金) サボテンG 外食、さつまいも掘り

林町デイセンター

- 8/3(土) バーベキュー
- 8/7(水) 音楽療法
- 8/17(土) 水まんじゅう作り
- 9/10(火) ポップコーンG 昼食作り
- 9/28(土) ミニ運動会&お月見レク
- 10/ 8(火) 個別外出(カラオケ)

きずな2006

- 8/12(月) うなぎ昼食会
- 9/20(金) きずな南知多1泊2日旅
(綾野ホーム・養老公園ホーム)

- 10/ 1(火) (仮称) 橋爪ホーム起工式
- 10/13(日) challenge・Dance 参加
- 10/20(日) 栗原栗マルシェ参加

第二あゆみの家

- 8/17(土) 夏祭り
- 9/18(水) やなぎG1 日外出
- 10/ 2(水) いちょうG 喫茶外出
- 10/ 6(日) 栗原地区運動会 参加
- 10/11(金) ポプラG 喫茶外出
- 10/18(金) 地震体験・夜間避難訓練

ぐっどらんど

- 8/ 9(金) 夏まつり

- 9/18(水) ホープG 日外出(ヤンマーミュージアム)
 - 9/20(金) ドリームG 日外出(アクアトト・ぎふ)
 - 9/27(金) グッデイG 日外出(岐阜市科学館、岐阜県庁)
- 西濃障がい者就業・生活支援センター**
- 8/23(金) ナカポツ連絡協議会 (高山)
 - 8/28(水) 障がい者ジョブミーティング西濃
 - 9/11(水) 第二回企業ネットワーク会議
 - 10/3(木) 第二回福祉ネットワーク会議

行事予定

- 12/21(土) クリスマス祝会
- 12/25(水) 大垣ルーテル教会にて礼拝(職員参加)

ボランティア (8/1~10/31)

- 8/27(火) 28(水) ボランティア1名(ぐっどらんど)
 - 10/1(火) 大垣オカリナの会 5名(林町デイセンター)
 - 9/24、10/15(火) ダンス活動 野原さん(林町デイセンター)
- 毎週火曜日午前 学生ボランティア1名(林町デイセンター)

ふれあい交流

(8/1~10/31)

- 10/16(水) 綾里幼稚園交流会
(ぐっどらんど)

新しい看板が
できました



編集後記

この時期、事務所のメンバーでちょっとしたお楽しみをしています。その名は“Pさん”名前が書いてある紙を引いて、当たった人に感謝を伝えるというものです。伝え方は自由でそっと気付かれないように工夫して。送り主が分かった時に「ありがとう。」と嬉しい気持ちになります。一緒に働く仲間を思い合い、日頃はなかなか伝えられない感謝の気持ちを伝える時にできたらと思います。(神崎あ)

編集：社会福祉法人あゆみの家
〒503-2123 岐阜県不破郡垂井町栗原2066-2
Tel 0584-22-4333 (代) FAX 0584-22-4344

URL <https://ayumi-ie.com/>
E-mail ay464h@he.mirai.ne.jp



グループホームのご案内

- めぐみホーム 不破郡垂井町表佐
- 東神田ホーム 不破郡垂井町東神田
- 別庄ホーム 養老郡養老町橋爪
- 養老公園ホーム 養老郡養老町養老
- 綾野ホーム 大垣市綾野町
- 表佐ホーム 不破郡垂井町表佐
- あいかわホーム 不破郡垂井町



公式 Instagram

おおぞら 〒503-2123 不破郡垂井町栗原2066-2 / TEL 0584-22-4998